カタナ式7.5　高速カタナ式1.5　マニュアル

カタナ式v7、高速カタナ式のマイナーバージョンアップです。

カタナ式7.5の変更点

1　pの位置を高速カタナ式に合わせた。

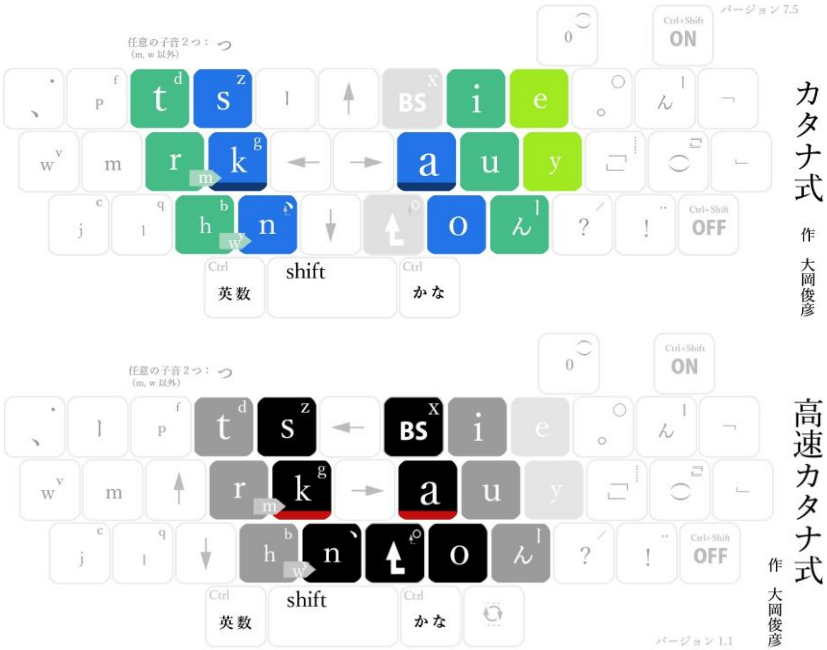
2　左記1、2の変更。

高速カタナ式1.5の変更点

1　記号（右手小指部）を若干変更。

2　編集モードを大幅変更して、文章編集がしやすくなった。

pの位置、記号の変更箇所は左図を参照のこと。



右小指ホームポジションに「カギカッコ開き閉じ」、シフトに「三点リーダ二文字」と、最もよく使う記号ふたつを。そのひとつ外に「カッコ開き閉じ（新設）」、シフトに二重カギカッコを。

新編集モード

変換キまたは無変換キーを押しながら、以下のショートカットキーが使えます。

1　赤系……変換し直し系

確定アンドゥ（Ctrl+BS）

確定した直後に押すと、変換モードに戻せる。（直後でないときはＢＳ）

再変換（変換キーの機能）

カーソル位置を含む一文節（文末に限り前文節）を、変換モードに戻せる。

※　確定アンドゥと再変換の違い

	可能時	範囲
確定アンドゥ	確定直後	直前に変換していた一文
再変換	いつでも	一文節
範囲を指定して再変換	いつでも	範囲すべて

※　確定アンドゥは、「。確定」のあとに限り、二回押すと変換モードに戻れる。ただ

し変換の範囲は前回と同じとは限らないっぽい（法則不明。アンドゥリストと関係している？）。

2　緑系……制御系

確定して行末へ（Enter→End）
　誤変換に気づいたとき、戻って再変換後、「確定して文末に戻ってくる」を1キーで可能。
アンドゥ（Zの位置にもアンドゥはあります）
リドゥ　（デフォのCtl+Yの位置）

※ アンドゥは「全消去」にも使えることは覚えておくべき。
「入力中確定前」「確定後」どちらのときも、入力したものを全消去できます。

3　オレンジ系……消去系

行末まで消去（Shift+End→BS）
　とりあえず消したいとき。
　消した分をコピーしておきたいなら、次の4のものを組み合わせて（たとえば、行末まで選択→カット）使用のこと。
※ アンドゥの「全消去」は、入力中、確定後のみ可能。こちらはいつでも。

4　青系……選択とカット&ペースト

行頭まで選択（Shift+Home）
行末まで選択（Shift+End）
カット
ペースト
前文節まで選択（Shift+Ctrl+←）
後文節まで選択（Shift+Ctrl+→）
※ カットせずにコピーだけしたいなら、Cの位置（カタナ式で→の位置）にデフォのままあります。

5　水色系……移動系

行頭まで移動（Home）　これと「行末まで消去」を組み合わせると強力。
行末まで移動（End）
前文節移動（Ctrl+↑）　誤変換に気づいたときなど、文節単位で戻り再変換がオススメ。
後文節移動（Ctrl+→）

6　ピンク系……変換制御

変換中の文字をカタカナにする
IME のデフォ。辞書登録のない語を変換したいときなど。

※　英数、半角はデフォの通り。

以上で定義されていないものに関しては、Ctrl キーを押しながらと同じものが割り当てあります。
ただし、Ctrl+F（検索）は、F キーを「ペースト」にバインドしたので、Ctrl キーとのみ使用できます。

ぶっちゃけておくと、これらの編集キーを使い分けるよりも、ＢＳキーカーソルキーを連打して打ち直すほうが手っ取り早いです。とくに筆が乗っているときは、そのほうがシンプルで原稿に集中できるでしょう。
最初はよく使うキーだけ（アンドゥや行頭行末など）を使い、使える編集キーをひとつずつ増やしていくのがオススメです（実際、カタナ式打鍵動画では、少ししか編集キーを使っていません……）。

コラム　カタナ式の速さの秘密

これまでのマニュアルでも、どうにかしてカタナ式の特徴を言いあらわそうとして来ましたが、ようやく短いコンセプトにまとまったので書いておきます。

カタナ式は、一音節を左右2アルペジオずつ以内で打つ。

単母音、単撥音	右一打
単音	左右の二打
拗音	右の二アルペジオ
撥音、長音	右の二アルペジオ（ただし、「いん」「えん」「うん」は例外）
促音	左の二アルペジオ

アルペジオは単なる二打より速い打鍵なので、仮に一打と数えるとします。とすれば、カタナ式は「左右の一打ずつ以内（ただしアルペジオを一打と数える）で、一音節を打つ」と言い換えることもできます。

もっとも、一音節の促音は後置で、カタナ式の促音は前置なので、厳密には異なります。実際、促音を右手にバインドしようとしたこともありましたが、右手が忙しくなりすぎることとキーの位置が足りないことで、促音アルペジオを左手担当にして、左右バランスを取った経緯があります。拗音を左アルペジオに、促音を右アルペジオに出来れば、コンセプチュアルに完成するかも知れません。

しかし単に「促音アルペジオと拗音アルペジオを入れ変える」をすると、左にyキーが増えるだけで、今までキー数を減らして運指を作ってきたことに逆行してしまいます。

このあたりのトレードオフがうまいこといけば、カタナ式は次の進化を遂げるかもしれませんね。